



Iwate Prefectural Hanamaki Minami Senior High School

岩手県立花巻南高等学校

同窓会報

2013



●発行 岩手県立花巻南高等学校同窓会
 事務局 〒025-0053
 岩手県花巻市中北万丁目288番1
 TEL (0198) 23-4236
 FAX (0198) 23-4365
 URL: <http://www2.iwate-ed.jp/hks-h/>
 印刷 川嶋印刷株



ご挨拶
 同窓会長 瓜生 祐子
 (高女33回生)

厳寒の巳年を迎え、会員各位
 にとってこの一年が、よい年で
 ありますようにと、お祈り申し
 上げながら新年のご挨拶を申し
 上げます。

へびは執念深いと嫌われがち
 ですが、神の使いでもあるとい
 われているとか、経済に明るさ
 を運んでくれることを念じてい
 ます。

ちなみに、自分もこの世に生
 をうけて七度目の巳年にめぐり
 あうことが出来ました。

満州事変（S六年）の二年ま
 えに生れ以来、戦争に翻弄され
 つつ、昭和二十年（一九四五）
 八月十五日の天皇陛下の玉音放
 送で、やっと戦争終結という、
 悲しい運命をたどった年代だか
 らこそ、幸せを実感できるんだ
 と思っています。

つまりその玉音放送は、母校
 の「時中堂」であり、全校生が
 すすり泣きした事が忘れられま
 せん。自分たちは女学校四年生
 で、卒業後の進路に不安を覚え
 たものでした。丁度一昨年の東

日本の大災害と重なります。そ
 んな中で命拾いをして残った者
 たちは、精一ばい出来る事をし
 なければならぬように思いな
 がら生きていますし、都合によ
 り今期も会務を遂行する役をお
 引受けいたしましたので、皆様
 方には、更なるご支援をお願い
 申し上げます。

さて母校は、平成二十三年の
 十月一日に、創立百周年記念事
 業を開催しました。そして昨年
 の十一月に、この事業に伴う一
 切の事業が完了いたしました。

関係者一同、安堵致しました。
 かえりみますと、同窓会とし
 てその重責を担って活動を展
 開してきたわけですが、あのエ
 ネルギーの源は何だったんだろ
 うなど思い起し、感慨無量です。
 これもひとえに、会員各位の情
 熱のたまものと、団結力であつ
 たと、改めて感謝申し上げます。

今後の活動は、反省と成果を
 生かし乍ら、次の時代に向けた
 組織の充実等、進む道筋を考察
 すべきです。具体的に挙げれば

- (1) 若い会員の総会参加。
- (2) リーダーの養成。―男性―
―若人―。
- (3) その他。

等、課題は山積です。どうか
 各位の知恵とアイデアでご力添
 え下さい。他方本願ばかりでは
 いけないと考え思いをめぐらし
 ている折、一月中旬の某新聞記
 事の投書欄に同窓会というテー
 マのページが目に入りました。
 その一部を借用して次に挙げて
 みます。

- ・長続きのコツ
 - ・授業風景の再現
 - ・ミニ同窓会も…。
 - ・幹事務め、一人前
- などいろいろでした。わが花南
 同窓会は日本一と自負していた
 ことが反省させられました。驚
 いたのは、新潟県のある高校は
 総会に、500名も参加する
 そうです。（卒業後すぐから、
 八十才後半の会員まで。）
 そんな同窓会を一度見学し、
 参考にしたいと思っています。
 そしてわが花南の組織力向上に
 寄与したいと念じます。
- このように理想の追求と実現
 に、微力ながらも貢献する一年
 にしたいと思っておりますので、よろ
 しくおねがい申し上げます。挨拶を
 結びます。

ご案内

平成25年度同窓会総会

- ◆日時 平成25年7月14日（日）午前10時20分より
- ◆会場 花巻温泉 ホテル千秋閣
総会終了後、懇親会を行います。
- ◆会費 5,000円
是非お誘い合わせの上、ご参加下さい。





「新たな」歩を踏み出して

校長 吉田 文夫

日頃から本校教育活動に寄せられますご理解とご協力に心から感謝を申し上げます。

また、落語家の六華亭遊花さんも、2011年の花巻市主催「イーハトーブ奨励賞」の受賞以来注目を集めています。今年度は東和支部総会やPTA講演会で落語を交えた講演をしていただきました。講演を聞いた生徒達からも大変好評でした。今後も、ご活躍している同窓生を、生徒や保護者に紹介していきたいとお考えですので、情報をお寄せいただければ幸いです。

また、現役の高校生達も頑張っています。部活動では、体操部女子が高総体・新人戦で優勝、ソフトテニス部女子がインドア大会団体・個人の優勝及び高総体・新人戦3位、ハンドボール部が男女共に高総体3位、弓道部女子が新人戦団体3位、陸上部女子が新人戦走り高跳びで個人優勝等の成果をあげました。さらに岐阜国体には体操部3名、ソフトテニス・ハンドボール

また、現役の高校生達も頑張っています。部活動では、体操部女子が高総体・新人戦で優勝、ソフトテニス部女子がインドア大会団体・個人の優勝及び高総体・新人戦3位、ハンドボール部が男女共に高総体3位、弓道部女子が新人戦団体3位、陸上部女子が新人戦走り高跳びで個人優勝等の成果をあげました。さらに岐阜国体には体操部3名、ソフトテニス・ハンドボール

弓道から各1名と、合計6名が出場しました。中でも弓道では岩手県チームの一員として近畿競技全国6位という結果を残しました。さらに、獨協大学主催の全国高校生ドイツ語スピーチコンテストで、昨年に続き全国3位という活躍をしています。

これら生徒達の成果や活躍は、本校を支えていただいている同窓生の皆様の物心両面からの温かいご支援をいただいているおかげです。皆さんの熱き思いが生徒達の励みになり、このような成果を出してくれているものと思います。この場をお借りしまして、深く感謝と御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

今年度は、これから次の百年に向かって、伝統を受け継ぎながら、新しい歴史を創る第一歩を踏み出した年でした。生徒一人一人がさらに輝きを増していけるように、同窓生の皆さまの今まで同様のご支援をよろしくお願いたします。

最後にありますが、日本一の花巻南高等学校同窓会です。皆さまのご健勝と心よりご祈念申し上げます。

学・短大・医療系・各種専門学校・就職と幅広い進路希望に対し、生徒が持っている力を存分に発揮できるようにしっかりと指導していく所存です。

国際交流については、二月に韓国からの受入、三月に韓国とアメリカ合衆国ハワイへの派遣が予定されています。今年度は、国際科学学系のハワイ修学旅行が40名のホームステイ受入が困難ということで、韓国に切り替えたのですが、日韓の問題で急遽国内に変更になってしまいました。来年度以降は、国際科学学系の海外修学旅行を再開したいと考えています。また、相互の短期ホームステイ研修は、韓国と毎年、ハワイとドイツは隔年で実施していく予定です。

副会長 小瀬川陽子(南高5回) 伝統ある花巻南高等学校同窓会を盛り上げるために、若い同窓生にはアイデアを出してもらい積極的な参加を望みます。そして活力ある同窓会にしたいものです。

副会長 佐藤 貴子(南高13回) 100周年の歴史を誇りに思い、「時中精神」を持って更なる花巻南高等学校の躍進に微力ながら、お手伝い出来る様、努めさせて戴きます。

副会長 福岡美津江(南高8回) 花南同窓生としての誇りを胸に、日々活動していきたいと思っております。

常任理事 小原 陽子(高女36回) 母校発展のため微力ですが協力したいと考えています。理事会には体に気をつけ欠席しない様にと思っております。

副会長 齋藤ワカ子(南高11回) 明るく元気に、若い方々が気軽に参加できる同窓会に!!

常任理事 高橋 昭三(南高2回) この世に生かされて、はや喜寿の域に達してしまいました。医者の掛持ちを仕事にして、病と向合いながら「日々是好日」を念じております。



副会長 齋藤ワカ子(南高11回) 明るく元気に、若い方々が気軽に参加できる同窓会に!!



常任理事 高橋 昭三(南高2回) この世に生かされて、はや喜寿の域に達してしまいました。医者の掛持ちを仕事にして、病と向合いながら「日々是好日」を念じております。



最後にありますが、日本一の花巻南高等学校同窓会です。皆さまのご健勝と心よりご祈念申し上げます。

役員紹介

役員寄稿

「震災・絆そして移動理事会」

監事 佐藤 洋子 (南高14回生)

平成23年3月11日金曜日午後2時46分、この時刻を境に皆の生活・意識は一変しました。

日本国内観測史上最大マグニチュード9の地震と、その地震が引き起こした大津波そして原発は、我々がかつて経験したことのない災害をもたらしました。一瞬にして多くの尊い命が奪われた沿岸被災地。職場や家すべてが流され、様相を変えたふるさとを前に呆然と佇む人。吹雪がたたきつけるがれきの中、必死に家族を捜す人。痛ましい映像が今も脳裏に焼きついてい

ます。そして極限状態に追い込まれながらも今なお被災地は震災の真只中にあります。

絆という名のもと、全国各地から被災地の復旧復興のためボランティアの方々も様々な支援活動が繰り返られ、今なお続けられて



おります。私自身今もボランティア活動をしております。当初は山菜そばの提供で、「食」に関してでしたが徐々に「心」に支援内容が変化してきており、将来を悲観しての自殺そしてうつ病と心のケアは深刻です。折紙でプローチを作りながら話を聞いてあげる。聞いてあげる事で閉ざしていた心が開いて気持ちがあふれていく。相手の気持ちは見えませんが何故か心が伝わってきて一日でも早い幸せを願わずにはいられません。

そういう状況の中、平成24年5月31日、平成24年度花巻南高等学校同窓会第一回理事会が被災地である釜石市鶴住居町の根浜海岸一望の宝来館で開催されました。バス2台で総数77名の参加移動理事会でした。学校を8時に出発し、花巻駅西口そして東和町コミュニティセンターを経由し遠野風の丘道の駅に立ち寄り、宝来館に到着したのは10時半頃でした。その後宝来館大広間に於て理事会が開催され、瓜生同窓会長のあいさつに続き横田副校長のあいさつがあり、直ちに議案の審議に入りました。①平成23年度事業報告について②平成23年度同窓会会計決算の承認について及び会計監査報告③平成24年度事業計画(案)について④平成24年度同窓会会計予算(案)について⑤定期総会(案)について⑥新役員(案)について提案された全ての議案は原案のとおり可決承認されました。

閉会后、全員宝来館記念碑の前で女将さんから津波が来た時の自分達の避難経緯について詳しく話があり又、山に登って避難する際も道中が広くなければならないという教訓も聞くことができました。又、被災直後から地域の避難所となった事や女将さんの恩師や同窓生により敷地内に慰霊の鐘を建立した旨のお話がありました。

その後再び大広間で昼食をいただき、途中仮設店舗で買物支援をし、迅速な復旧復興を願いながらがれきの山を横目に帰路につきました。帰りのバスの中で、被災地で行なった移動理事会の重要性を感じ、大震災の経験が先人からの教訓として後世に引き継ぎ未来の防災に活かしてほしいと願いながら。

常任理事 千葉 金吾 (昭35卒) 定時制の時代に全国硬式野球で優勝した仲間です。現在の生徒が優勝するよう応援します。同窓会では何か大きな楽しい事をしたかと思っております。

常任理事 葛巻久美子 (南高18回) 南高同窓生が花巻市に、県内各地に、日本の全県にあふれていきます様に。

常任理事 小國 淳子 (南高24回) 不思議な縁で今回から同窓会の役員になりました小國です。まずは役員の一期末了まで諸先輩方の足を引っ張らないようにベストを尽くします。よろしくお願ひします。

監事 石川 映代 (南高6回) 岩手県立花巻高等学校、4回生卒

監事 佐藤 洋子 (南高14回) 無理せず楽しく和やかに。

監事 高橋 睦子 (南高25回) 歴史ある花巻南高同窓会の先輩方に感謝しつつ、みな様との橋わたし役として、微力ながら努めていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



恩師寄稿

コーヒーカップの香りから

山田靖了先生

私はコーヒーが大好きで一日4〜5杯、40年来愛用のカップで飲んでいました。カップには「祝卒業 花南生徒会」と銘があり、香りと共に過ぎし日々にもひたるひと時です

音楽科教諭として26歳の昭和43年4月から51年3月までの8年間大変お世話になりました。前任校は3・11東日本大震災で大きな被害を受けた大槌高校。男女共学、海育ちのやんちゃな生徒たちと自由闊達な雰囲気での生活でした。

女子校ということで身の引き締まる思いで赴任。最初の仕事は入学式の足踏みオルガンで「礼の合図」。(44年更新され古いピアノは体育館に移されました)とにかく見るもの聞くもの全てがフレッシュ。生徒の制服は眩く、言葉づかいは丁寧、礼儀もしっかりしていて、廊下での会釈には戸

惑いました。先生方は温かく親切、丁寧な話し方にも品位品格があり慣れるまでに相当時間を要しました。

学校目標に学業と部活動の両立があり、部活動は全員参加で盛んでした。運動部はバレー、ハンド、ソフト、バスケット、体操部、水泳部等、文化部は音楽部、吹奏楽部、美術部等大活躍でした。

音楽部は松田順子先生の薫陶をいただき有名な作曲家高田三郎氏の指導を受けるなどハイレベルの活動を行っていました。私の指導の至らなから退部者を出すなど混乱を招き、当時の生徒諸君には申し訳ない事をしました。思い直すに慚愧たるものがあり、浅学の身を悔いています。

生徒諸君の頑張りを得て昭和45年からは毎年全日本合唱コンクール東北大会に出場。45年銅賞、46年銀賞

を受賞。岩手県勢が入賞する事は殆どない時で快挙でした。48年からはNHK合唱コンクール岩手県大会で連続して最優秀校を受賞。

担任は二度、それぞれ卒業生を送り出し、今でもクラス会に招かれ教師冥利に尽き感激です。成績の評価が非常に厳しい時代でしたからその中であつても多くの大学、短大に合格し嬉しい実績がありました。

昭和48年代岩手大学に入学するのは難しい時代、「岩手大学に生徒を送ろう」と先生方と発奮。確か家庭科、音楽科、体育科、小学校課程2人の併せて5人が合格し嬉しいことでした。

先生方にも感謝しなければならぬ事があります。「〇〇促進委員会」が設けられ、私は「免許取得委員会」「自動車購入委員会」「住宅建設促進委員会」を結成していただき自動車免許取得、クラウン(中古車)の購入、住宅新築まで取り計らっていただくなどまさに良き時代でした。

思い出深い二つの行事があります。一つは46年9月

13日、創立60周年記念行事としての「砂原美智子・立川澄人ジョイント・リサイタル」。同窓会主催により花南の生徒は勿論、花北の音楽鑑賞会にもなり同窓生・一般の方々を迎え市体育館は満席。何しろ知名度は高く日本のオペラ界を背負うお二人ですし、響き渡る朗々とした声に魅了され大盛会でした。

もう一つは、50年8月24日花巻市文化会館落成記念、ヘンデルの「メサイア演奏会」。その指導者に加わり、花巻市内合唱団総勢に、花南・花北の生徒、遠くは盛岡からの参加者も加わり声高らかに待望の会館落成を祝いました。当初ピアノ伴奏の予定でしたが、花巻ユネスコ・ペ・セルクルのご尽力をいただき弦楽オーケストラの伴奏となり、彩り豊かな演奏でした。

43年から52年まで花巻ユネスコ・ペ・セルクルの女声合唱団の指導をさせていただき大人の合唱のノウハウを教わりました。

花南の後は盛岡二(4年)、宮古(6年)、一関一

(10年)、盛岡一(5年)に勤務。盛岡二高以来全ての高校で殆ど毎年、全日本合唱コンクール東北支部大会で入賞、一関一高では県下初の全国大会金賞を受賞。おかささんコーラスを含め5回全国大会出場しました。

退職後は母校の岩手大学教育学部附属中学校に非常勤講師として13年経ち、現在、混声合唱団「北声会」

常任指揮者、一関女声合唱団、コールトONAN指揮者、静岡大学OBグリークラブ(東京支部)の指導にもあたっています。昨年5月から岩手県合唱連盟理事長を仰せつかり、グローバルな合唱界になることを願いながら多くの方々と力を携えてやっております。

今思うに、花南での貴重な体験が、私の合唱活動

の原点となっており感謝しています。

結びに、お世話になった卒業生、保護者、同窓会、地域の方々には心から厚くお礼申し上げます。男女共学以来の花巻南高に伺う機会はありませんが、多くの活躍を側聞する度に嬉しく思っております。

花巻南高、同窓会の益々のご発展を祈念いたします。



「音楽部第4回定期演奏会」昭和45年8月1日

会員だより

看護の心を みんなの「こころ」に

村田 千代
(南高5回生)

看護は命と向き合う仕事です。五感を総動員して命を守るというこ



こころまで、看る。

5月12日は看護の日

看護週間

花巻南高校を54年前に卒業し、現在は非常勤で大学の看護基礎教育に携わっています。看護を志し、この道を歩んでから、わたしは多くの教師に巡り合ってきました。一番の教師は患者さんとその家族です。そして、自らの看護体験を生きて、生きた語ってくれる看護師仲間からは多くの文献を読む以上に、看護の奥深さや看護の魅力を教えてもらいました。

支え合うことの大切さ、看護の心をたくさんの人と共有できるよう、1990年に国は、ナイチンゲールの誕生日である5月12日を「看護の日」に制定しました。「看護の心をみんなのこころに」をメインテーマに気軽に看護にふれていただける行事が全国各地で行われています。その行事の一つとして、日本看護協会は、看護場面で出会った忘れられない思い出やエピソードを募集し、受賞者の表彰を行っています。第一回の最優秀賞に輝いたのは愛媛県の看護師の「最後まであきらめない」という作品です。これは、昏睡状態でハイケアユニットに入院した大学生A君が看護の力で意識を回復するまでのエピソードです。付き添っていた母親は大学まで出向いて友人の声を週替わりで録音し、毎日耳元で聞かせていました。また、自らも廊下に響きわたる声で明るく語りかけていました。母親の愛情の深さ、信念を感じさせる日々でした。看護師も同じ気持ちで関わったが母親のそれには到底かないませんでした。しかし、どんな刺激に対してもA君からの反応はありません。数か月同じ状態が続いていましたが、看護師は「なんとなくわかってい

るのではな

い

か

い

か

か

か



回想雑感

内匠 香織
(南高24回生)

一昨年の一大イベントでありました、創立百周年も無事終わりました。

諸先生方をはじめPTAの役員の皆様におかれましては本当にご苦勞様でございました。

百周年を機会に小さな同窓会も開くことになり久しぶりに旧友に再会いたしました。

皆さん、それぞれ山あり谷ありの人生を送られていて当時の思い出話を花を咲かせました。

私共の在校の頃は、バリアリ女子高で現在の、まなび学園の場所にあり放課後ともなるとマルカンの食堂で、今ではすっかり有名になった10段ソフトを食べながらおしゃべりしたものです。

あの頃は北高も東高も街の中心にあり、夕方は上町も、けっこう賑わっていました。

時の流れとともに花巻も

かなり変わりました。

かくいう私も一昨年、孫が生まれ、時の流れの早さに愕然としつつも、こうやって命が受け継がれていくことに感慨無量になります。

時間ばかりが過ぎ、自問自答の毎日に焦りを感じながらも健康で働けることに感謝し、百周年を迎えた母校に恥じないように、生涯現役を目標に精進して参りたいと感じております。

花南生の誇りと友

佐藤 仁 実

(南高37回生)



花巻 南高を卒業してから

23年が経ちました。私はソフト部と学校行事に燃えた3年間でした。体育教師を目指して日体大に入学、教育実習で母校にお世話になった時は、男女共学になっていて、校舎の場所も制服も新しく変わり、グラウンドは何倍も大きくなっ



て、別の学校に来たようでした。

大学卒業後、県内の中学校で体育教師をしていましたが、6年前に家業のスポーツ店を継いだ時、同窓会の学年理事のお話を瓜生会長から頂きました。

正直、高校を卒業してから、すぐに上京し、ソフトボール一筋だったため、ほとんどの同級生と連絡をとっていませんでした。自信がないまま、学年理事を引き受け、会議に参加しました。

同窓会の理事になって感じたのは、瓜生会長をはじめ、先輩の方々は同窓会を

盛り上げていて本当に素晴らしいと思います。100年続く伝統ある母校に同窓会の支えがあることに、誇りを感じました。

昨年同窓会総会の担当理事になり、四苦八苦していたところ、何名かの同級生に相談したところ、快く応じてくれ、余興も一緒にやってく

れられました。部活も学校生活も自分達の想像以上に厳しい時間を過ごした仲間たちなので、数十年ぶりの再会でも気分はすぐに高校時代と同じになり、数回の練習は楽しい時間を過ごすことが出来ました。当日東京からわざわざ余興のために来てくれた同級生もいたりして涙が出るほどうれしかったです。

人を集めるのに精一杯だったため、簡単なダンスしか出来ませんでした。私たちが踊った2曲は他の担当学年の方たちには、かなり劣る作品だったと思いますが、達成感と華やか

な舞台は忘れることが出来

ません。これを機に同級生に声をかけ、旧交を温めたいと考えています。

仕事や子育てなどいろいろな事が強いられる年齢ではありますが、これからは、もっと同窓会や母校を盛り上げていきたいと思っています。

末筆ではございますが、花巻南高校の益々のご発展と同窓会の更なるご盛会を祈念致します。

社会人二年目

倉本 祐太郎

(南高54回生)



花巻 南高を卒業して6

年、社会人二年目。今は高校の頃夢に描いていた「中学校教諭」として働いています。実は、なぜこの道を選んだのかと、ふと考えてしまうこともありましたが、それほど濃い二年間でした。教員生活スタートの年。

昨年度はとても辛い一年で

した。生徒と関わるのは楽しかったのですが、それ以上の忙しさと精神的な疲労で何度か挫折そうになりました。

それでも頑張れたのは、やはり生徒たちの存在と自分のやりたい仕事をできているという想いがあったからでした。一番自分自身を苦しめていたのは、職場で「自分」を出せない窮屈さにありました。周りはとても優しい先生ばかり

だったので、どうしても周りとの距離をとってしまいがちでした。いつも真面目な自分を取り繕い、笑うこともあまりなかったと思います。

そんな中、始まった今年度。初めての担任を持たせていただき、負担は増えましたが、慣れもあってか心に余裕が持てるようになりました。職場でも素の自分を出せるようになり、毎日

がとても充実しています。今の仕事で楽しいことはたくさんありますが、なかでも一番楽しいと感じるのは部活動指導です。私は剣道部の顧問をしていま

す。剣道は中学校の頃やって

いたので一応経験者ではありますが、人に教えられないほど上手くはありませんでした。それでも、生徒と一緒に稽古をしたり、練習メニューを考えて試してみたりしているうちに、いつ

のまにか中学のとき以上に剣道に夢中になっていました。部活動指導をしていたなかで感動することもたくさんありました。本当に感謝したの、一昨年の中総体。そのとき剣道部には公式戦では一度も一本をとったことがない女の子がいました。その子が中総体で初めて一本をとったとき、頭

の先からつま先まで電気が走るような感覚を味わいました。生徒の成長の瞬間に立ち会うことができた気がしてすごく感動したのを今でも鮮明に覚えています。

これから苦しいことも辛いこともたくさんあると思いますが、いろいろな生徒との出会いがあるから、成長の場に立ち会えるから、この道を選んで良かったと思えます。

事務局だより

定期総会

今年度の定期総会は7月8日(日)花巻温泉ホテル千秋閣にて、273名の参加で開催されました。



会務報告の後、今年度で退任される役員の方々に「あいさつをいただきました。また、弘前学院大学客員教授の村田千代さん(5回生・本号会員だよりに掲載)による講演が行われました。

懇親会では当番幹事(7回生、17回生、27回生、37回生)が中心となり準備・企画を行い、例年通りの華やかなステージを繰り広げました。最後は恒例の全員参加の輪踊りで締めくくりました。

同窓生の活躍



六華亭遊花(本名:川野目江里子、南高32回生)さんをお迎えしたPTA講演会
落語を交えながらの講演は生徒、保護者に大好評でした。

百周年御礼

創立百一年の歩を踏み出した平成24年度、最後の創立百周年事業として、12月末に人工芝運動場周辺の舗装工事竣工、1月末に記念事業協賛会会計監査をもって一切を完了することができました。これも偏に同窓会の皆様を始め、関係者各位のご支援によるものと、

衷心より御礼を申し上げます。

顧みますと、平成17年度より6年間に渡る準備を重ね、創立百周年目となる年を迎えましたものの、記念する祝賀を半年後に控えた3月、未曾有の大震災が発生し、記念式典・祝賀会の開催が危ぶまれました。しか

し、祝賀自粛が広がる中、同窓会がいち早く開催に向け立ち上がり、10月には海外からの来賓を始め、八百名を越える参加者を迎え、盛会裏に開催するに至りました。

3年前に同窓生名簿の作成、震災発生の半年前に募金活動の開始等、爪生祐子会長の見事な先見の明と、それを支える同窓会役員、並びに同窓生の皆様に敬意を表します。

最後に、事務局の任を得ましたことに感謝申し上げます。花巻南高校同窓会が益々発展しますことを祈念し、創立百周年記念事業の御礼とさせていただきます。ありがとうございます。

創立百周年記念事業協賛会 事務局 米田 保弘



名須川瑞穂さん(南高45回生)横浜国際女子マラソン2位



「訛って、笑って、コミュニケーション」10月29日花巻市文化会館

平成二十四年度

同窓会事務局日誌

平成24年		
4月6日(金)	入学式	本校体育館
4月8日(日)	東京支部総会	上野精養軒
4月13日(金)	第1回常任理事会	花籠
4月16日(月)	100周年記念誌配布	
4月25日(水)		本校会議室
4月18日(水)	会計監査	本校会議室
5月27日(日)	東和支部総会	パレスまほろば
5月31日(木)	第1回理事会	釜石市・大槌町
6月10日(日)	北上支部総会	幸楼
6月23日(土)	石鳥谷支部総会・学校見学	
6月28日(木)	総会準備役員会	盛田屋
7月2日(月)	総会準備役員会	本校会議室
7月8日(日)	定期総会	ホテル千秋閣
7月16日(月)	新旧役員歓送迎会	ホテル千秋閣
10月28日(日)	盛岡支部総会	渡り温泉さつき サンセール盛岡
11月6日(火)	第1回同窓会報編集委員会	まなび学園
平成25年		
1月17日(木)	第2回同窓会報編集委員会	まなび学園
2月28日(木)	同窓会入会式	本校体育館
3月1日(金)	卒業式	本校体育館

支部だより

東京支部

当番幹事 松本理佳子

(南高24回生)

春爛漫、桜満開の上野の森は花見の人、人、人……平成24年4月8日、上野精養軒にて第59回東京支部総会が開かれました。

有田睦子支部長の元、支部総会準備とそれに並行して来年迎える東京支部60周年に向けての名簿作成準備も進められていたため、理事さん達の素晴らしい協力体制の中慣れない作業を行って参りました。

本校より校長先生、同窓会会長はじめ役員、事務局の方々のご出席をいただきました。

例年どおりの議事、懇親会という流れの中、メインアトラクションの小田島立子さんのオペラと伴奏の沼田育子さんは、高女35回生と南高23回生という年齢差を超えた同窓生ならではの音楽会となりました。

後半の余興では母校創立

100周年のお話を伺いつつ『花南讃歌』と『同窓会音頭』の紹介があり、皆で輪になってくり返される踊りに思わず笑みがこぼれました。皆様とのなつかしのメロディの合唱は、生き生きとした美しい歌声が響き渡り、何曲でも歌い続けていられるほど、本当に元気いっぱいでした。学年毎のスピーチも大変楽しく、和気あいあいとした雰囲気の中、様々な年代の同窓生のお話を聞くことが出来たのうれしいことでした。

初の当番幹事である南高24回生(大澤智恵子さん、金井牧子さん、松本理佳子)の三名は卒業以来36年ぶりの顔合わせとなり、同窓会というものの存在をあらためてうれしく感じました。脈々と続いている南高の歴史の中にあつて、たった3年間の高校時代の思い出達が時空を超えてよみがえってくる不思議さ……。東京支部総会に参加してくださった方には、都内はもとより栃木、茨城、埼玉、千葉、神奈川、静岡、遠く岐阜にまで及びます。思いがけない再会や繋がり、そしてふるさとの思い出や今を語る場として同窓会に参加出来る時にはぜひとも参加して旧交を温め

てみてはいかがでしょう……。そして、同窓会の集まりはやはりふるさと花巻に思いを馳せ、それを味わいつつ。ああ、楽しかったなあ……来年も来てみたいなあ……という想いを胸に帰途につけてこそそのものではないでしょうか。平成25年4月14日(日)には、東京支部60周年の総会が開かれます。どうぞ沢山の同窓生がご参加くださいますように!!

北上支部

支部長 安藤 宣子

(南高6回生)

北上支部では、支部総会並びに懇親会を隔年行うことが恒例となっており、平成二十四年六月十日(日)に「幸樓」において開催されました。

総会開催に当たり、役員会を前年度から新年会を含め七回持ちました。

主な内容は、会員の参加を少しでも増やし、北上在住者の輪を広げ、支部の活性化を図ることでした。そ

れには、欠員になっている学年連絡員の補充と名簿をもとに声かけをしようということでした。もう一つは、魅力ある講演会の開催であります。そこで、今回は、「世界青年の船」に、日本のリーダーとして、大活躍された東和町出身で四十代の女性、小原ナオ子氏に依頼することに決めました。平成二十四年の総会は、北上支部設立以来三十二回目となります。参加者は、前回より増え、三十七名。来賓として、瓜生同窓会会長様、齊藤・佐藤両副会長様、学校より、吉田校長先生、佐藤事務局長様をお迎えし、例年通り行なわれました。

(一) 総会
総会の挨拶では、会長様より、創立百周年記念行事成功裡終了謝辞を。校長先生からは、生徒達の学校生活の様子、部活動の活躍、進路状況について話されました。
事業や予算、決算について承認され、役員改選となり、不肖私が支部長の役を頂きました。皆様のご支援をいただきながら、会員の絆を深め、母校の発展に少しでも寄与できるよう努めてまいりたいと思っております。
(二) 講演
演題 「人との出会いを通して」
講師 日本国際協力センター 研修監理員 小原ナオ子氏
要旨
自分の人生は、全て人との出会いによって方向付けられて来た。
第一の出会い、当時、東和町に勤務していた米国人の英語指導講師の働きで米国に留学できた。
第二の出会い、その時のホストファミリーである。また、アラム大学の故ベイリー教授に出会い「人生の通過点の一点、一点は、問題ではない。長い目で方向性を定め、山頂を目指す気持ちが大切である。どの山に登るかは、心の声を聴きなさい。」との言葉が自分の人生設計の大きな柱となった。
大学卒業後は、元東和町町長に出会い、彼の人生観





や日本の行政を学んだ。
その後、政府主催の青少年育成事業にも携わり「国際青少年の村」副実行委員長として事業を創ったり、「世界青年の船」の日本ナショナルリーダーとして任務を全うした。

また、岩手県立大学で非常勤講師として、国際関係や国際協力の在り方について考えを深め、未来を作る作業をして行きたいと強く思うようになった。

このような強い願望と行

動力は、世代と国境を越えた巨大なネットワークと一過性と継続性二つの側面を持つ出会いを大切に出来たからだと思うのである。

その後、これまでの経験を生かし、東日本大震災発生から一週間後には「ハーティネットとうわ」を立ち上げ、東和町の自宅を拠点に被災地への物資援助活動を展開した。現在は、長期に渡る生活復興支援として母子の健康や乳幼児を抱える女性の就労支援を釜石を拠点に行っている。

結びとして、今後、哲学を持った行動を継続し、国際関係や国際協力のあり方について「伝え」ながら、経験を積み、更に、出会いを求め、出会いに感謝していきたいと話された。

変化の激しい時代に、未来を見つめ前向きに生きていくには、どうあるべきかを示唆に富んだ講話でした。

(三) 懇親会
開会のことばの次

に百周年記念歌「花南讃歌」を合唱。祝舞、詩吟、独唱、全員による踊りと大変な盛り上がりでありました。特に、卒寿の高野欣子様、米寿の三宅貞子様お二人の長寿を祝しての花束贈呈や、定時制卒の男性二人のスピーチが会に花を添え、中身が濃く笑顔いっぱいのお会となりました。お互いに出会えたことに感謝し、次回の総会でまた会うことを誓って散会いたしました。

今年の一月二十九日には役員の新年会を行う予定になっており、役員間の絆を強固にしなが、北上支部同窓会の方向性を探って参りたいと思っております。

石鳥谷支部

支部長 上山 準子
(南高10回生)

平成二十四年六月二十三日(土)隔年で行われます石鳥谷支部総会が開催されました。

総会に先立ちまして、百周年を迎えた母校を見学させていただきましたので、午前九時三十

分、バスで出発いたしました。

母校に着くと、すぐ吉田文夫校長先生のお出迎えをいただき、新設された人工芝運動場や記念樹のシラカシの木などを御案内いただきました。校庭では野球部員の練習する姿が見え、弓道部の練習場では男女の部員が練習しておりました。

また、生徒達のクラブ活動や合宿等に使われている花南研修会館や清々しい空気に包まれたホールや教室など、校舎内も見学させていただきました。

最後に新設された生徒通用門前で集合写真を撮り、総会の時間に間に合うように戻って参りました。

総会は、副校長の横田昭彦先生、事務局の及川真紀先生、同窓会長瓜生祐子様、副会長齋藤ワカ子様、同じく副会長佐藤貴子様様の御臨席を賜り、また我が支部誇りの高女十七回生の佐藤ミキ様の御出席もかない、開会となりました。

物故者黙祷においては、東日本大震災で亡くなられた方々の御冥福もお祈りい

たしました。

瓜生会長の御祝詞では、百周年記念行事が盛会裏に終われた事への感謝の言葉をいただきました。また、同窓会から震災で親を亡くした子供達の就学、進学を支援する県の「いわての学び希望基金」に、百周年記念式典の積立金の一部と各支部から届いた義援金を合わせ、百万円を寄付させていただきます。

報告がありました。突然の不幸に見舞われた子供達を思うと、胸が締めつけられる思いですが、強く生きて欲しいと願うばかりでした。

議事の後半に役員改選が行われ、箱崎光子支部長が退任されることになりました。力不足は重々承知しておりましたが、私が引き継がせていただきました。

懇親会では役員総出演で披露した、遊び庭(あしびなあ)やどんとこい岩手の



踊りに、同窓会長様、副会長様、事務局の方も交わり一緒に踊っていただき、楽しいひとときを過ごすことができました。有り難うございました。

今回の総会、懇親会は盛田屋(御家族に同窓生二人、在校生一人がおられます)を会場に開催いたしました。初めての会場でしたので役員一同緊張の連続でございました。不都合もたくさんあったと思いますが、御出席下さいました皆様方の温かい御協力を頂き、無

事終ることができ、箱崎前支部長と共に感謝申し上げます。

大役をお受けいただきましたが、微力な者ですので、皆様方の御指導、御鞭撻を頂きながら、次の世代へ繋げていきたいと思っております。どうぞ宜しくお導き下さいますようお願い申し上げます。

盛岡支部

副支部長 黒川 俊子

(南高10回生)

平成24年度盛岡支部通常総会並びに懇親会は、10月28日(日)午前11時より「サンセール盛岡」を会場に開催されました。

当日は母校副校長横田昭彦先生、事務局葛尾欣児先生、そして同窓会長瓜生祐子様、同副会長小瀬川陽子様、同窓会監事石川映代様、前常任理事嶋田やすこ様をご来賓としてお迎えし、同窓生は高女27回生から南高18回生まで96名参加の会となりました。

総会の支部長の挨拶では、母校への思いや今年51

回目の総会を迎えた機会に昔を懐かしみながら先輩諸氏を思い出してほしい旨のお話を頂きました。(第1

回総会昭和37年12月1日撮影写真掲載) 来賓の副校長横田昭彦先生からは4月に赴任し少しずつ花南の様子に分かってきたこと、特に同窓会を含めて取り組んだ創立100周年記念事業の大成功にはとても驚かされたこと、部活動における生徒達の華々しい活躍など丁寧にお話を頂きました。私達も後輩達の活躍振りに大変嬉しく誇りに思いました。

出席者紹介では支部長から回生毎に紹介がありました。南高18回生以降の参加者が無く少し寂しい気持ちになりました。議事の

ところでは、平成23年度事業及び決算に関する件、会則の一部改正に関する件、役員改選に関する件について協議されましたが、会則の一部改正では役員任期が「総会の翌日から2年後の総会の日までとする。」と改正されました。役員改選の件では会計監事の田代春子さん、幹事会計の鎌田久

仁子さんと高橋優子さんの退任に伴い、新たに会計監事に村井公子さん(17回生)、幹事会計に小野ケイ子さん(12回生)と藤原トシ子さん(12回生)、幹事庶務に川村富貴子さん(12回生)が決まりました。

総会後の懇親会は15・16回生が当番で、恒例により円卓にはお花が飾られ和やかなうちに楽しく進行されました。特に、同窓会長瓜生祐子様からは650名におよぶ沢山の卒業生が集まり創立100周年記念事業が成功裡に収められたことへのお礼、同窓会本部と共に



に5支部でそれぞれ同窓生が頑張っていること、同窓会に対する熱意と決意の籠もったお話を頂きました。ここで春の叙勲において「旭日双光章」を受章されました第5回生の村田千代さんに、サブライズではありましたが花束の贈呈を行い皆さんで祝福致しました。続いて、3回生の高橋寿さんより乾杯のご発声を頂き、あとはしばし美味しい食事を頂きながらの楽しい会話が弾んだところで、いよいよ会員有志によるステージ発表が始まりました。

初めは秋の季節に相応しい「もみじ」「赤とんぼ」を会場の皆さんで声高らかにしつとりと歌いました。続いて我らが支部長堤世知子さんのゆつたりとした中にも凛とした動きのある「太極拳」が演じられ思わず見入ってしまいました。3番目は7回生の内藤貞子さんによる新舞踊「人生峠」、今回の踊りは男踊りに挑戦したと言うことでしたが、小柄な

お身体でも踊りが大きく見えました。4番目はハワイアンフラ「ブアリリレファ」、高女36回生舞田恭子さん南高3回生細川昭子さん南高10回生黒川俊子による平均年齢75歳の3人でしたが、会長さんが言っていた南高卒業生として品良く優雅に心を掛けて踊りました。5番目は9回生吉田恵子さんによる怪体操、会場の皆さんと一緒に身体はもとより脳の活性化を図りながら大いに楽しみました。余興の最後に行われたのは、この日のためにいらして頂いた嶋田やす子様のご指導による「同窓会音頭」を会場一杯の輪になって踊り、母校での懐かしい思い出が蘇りました。

懇親会の締めとして、7回生中村ウメさんの伴奏による校歌斉唱、会場いっぱい歌声が広がり、しばし高校時代にタイムスリップし、同窓会の一人ひとりの絆が一段と深まった感じが

ありました。そして卒業生であり現在花南で教諭として活躍されておられる葛尾様からエールを頂いたあと、次回当番の紹介と今年度当番への感謝の拍手と共に来年の再会を期して閉会となりました。



木の花同窓会盛岡支部 第1回総会 昭和37年12月1日 桜会館

東和支部

支部長 朝倉 千里

(南高10回生)

平成二十四年五月二十七日(日)「パレスまほろば」大ホールに於いて東和支部



せ、捨てたもんじゃない……と。そしてこのような方が同窓生として、全国をかきめぐり、ご活躍されている事に誇りをもちたいものです。

続いて懇親会が始まり、ごちそうを食べながら、昔なつかしいお話し等歓談をしながら余興を楽しみました。手品や、踊り、カラオケありのみなさん方の多芸で場を盛り上げていただきました。

今、新役員態勢で、同窓会東和支部名簿の整備見直しをしております。会員の拡大と若い会員の方々、男性会員の方々に参加していただき会員相互の親睦を深め合っていくよう努めて参りたいと思います。

私達役員も一丸となって力を合わせ、協力し合いながら、皆様方に支えられながら、ご指導をいただき、当支部のため、頑張る所存でございますので、よろしくお願いたします。

終わりになりましたが、母校の益々の躍進を御祈念申し上げます。

総会が開催されました。来賓として、吉田文夫校長先生、総務部長米田保弘先生、同窓会長瓜生祐子様、同副会長小瀬川陽子様、齋藤ワカ子様、初代支部長小野寺悦子様のお臨席をいただき会員四十一名の出席で始まりまして。

最初に、瓜生会長様から「創立百周年」が大成に終了出来た事のお礼等々のお話をいただき、その後吉田校長先生からは、在校生の現況をお聞きし、後輩が文武両面で活躍、その成果

を伺い頼もしく今後の活動を期待し、同窓生として、本当に嬉しく思った次第でございます。

その後議事に入り、全議案とも内容を慎重審議の結果提案のとおり承認されました。総会閉会后、講演(寄席)「東方落語」六華亭遊花さん(遠野市出身、花巻南高卒業生)の方言でのお話、会場一杯の大きな笑い声が響き、久々の脳の若返りに繋げられたものと思われました。本当に方言って、ホンワカとして心をなごませ、捨てたもんじゃない……と。そしてこのような方が同窓生として、全国をかきめぐり、ご活躍されている事に誇りをもちたいものです。

て最後は瓜生会長さんのリードで全員の手踊りと和気あいあいの中、しめくくする事が出来本当にありがとうございました。毎回毎回瓜生会長のバイタリテイにはおどろかされ、私達同窓生の憧れです。益々ご健勝でご指導願いたいものです。ご多忙の中、曲げてご出席いただきましたご来賓の方々、そして会員のみなさんに心から感謝申し上げます。

文芸作品



秀麗山脈

照井重美 (南高16回生)

「ここからは奥羽山脈がきれいに見えますよ」受講している講座の先生が指す先を見ると、なるほど、学習室の窓から見える風景には、残雪の美しい稜線が連なっている。

かつてこの地で3年間を過ごし、屋上から眺めた早池峰山は記憶にあったが、奥羽の山並みは全く気に留めることはなかった。

ここは生涯学園都市会館。「まなび学園」の愛称で花巻市の生涯学習の場として定着したかつての母校、花巻南高等学校の跡地である。

芸人の語り文句ではないが、あれから40年、この部屋で再び机に向う時間があるなどと、想像すらしたことがなかった。

「山に詳しいEさんが目を細め説明を続ける。「和賀岳はあの辺り、栗駒・須川、室根山、その辺は五葉山だよ」

見渡す一連の山々は、まさに「秀麗山脈」と呼ぶにふさわしい姿を見せている。身近なふるさととの光景である。

日々、ズームインで見ている山も、視点を変えて眺める山も、四季折々に美しく、時に厳しくはあるが心安らぐ風景を見せてくれる。

今朝の山並みは陽に輝き一際秀麗である。

周囲は放牧地である。四方をぐるり巡らしそびえ立つ山々を眺めるのに、遮る何ものもない。まるでこの景観が全て自分のものであるかのような錯覚に陥る。

「あれは早池峰山、岩手山はチョット見えないがあの方向



母校だより

平成24年度 進路合格状況

1 進学受験状況

9割近くの生徒諸君が進学を希望し進学校として躍進しています。推薦入試では、国公立大学から専門学校まで、昨年とほぼ同様の88名の生徒が受験に挑みま

名が合格。実に国公立大学の推薦合格率は55%という高い合格率でした。また、今年度医療系以外の専門学校を希望する生徒が増加傾向にありました。四年制大学や医療・看護系専門学校を希望する生徒は例年多く、多くの生徒が受験生として頑張っています。この大晦日と元日を除いた年末年始に研修会館(同窓会館)で予備校主催センター試験直前模試や学習会、特別講習を企画し、先生方の熱意のある指導によって受験に向けた万全のバックアップ体制を敷いています。

主な合格先

(平成25年)

2月15日現在

〈国立大学〉

- 釧路公立大(2)
- 岩手大(3)
- 岩手県立大(4)
- 宇都宮大(1)
- 埼玉大(1)

〈私立大学〉

- 岩手医科大学(1)
- 盛岡大(3)
- 東北学院大(6)
- 二松学舎大(1)
- 日本大(2)
- 日本赤十字秋田看護大(1)
- 国士館大(1)
- 仙台大(2)
- 東北福祉大(1)
- 他

〈短期大学〉

- 盛岡大短大部(7)
- 岩手看護短大(1)
- 仙台青葉学院短大(1)
- 東京交通短大(1)
- 他

〈医療系専門学校〉

- 国立仙台医療センター附属仙台看護助産学校(1)
- 県立一関高等看護学院(1)
- 県立二戸高等看護学院(1)
- 水沢学苑看護専門学校(1)
- 岩手看護専門学校(1)
- 岩手医療専門学校(2)
- 小田原高等看護専門学校(1)
- 湘南平塚高等看護専門学校(1)
- 他

〈各種専門学校〉

- 専大北上福祉教育専門学校(5)
- 北上コンピュータカデミー(6)
- 他

2 就職内定状況

近年の不況も関係し、進学してから就職する方が有利だと思いが浸透し、ここ4年間の民間就職希望者は減少傾向にあり、今年度も統一選考試験を受験し

たのは18名でした。内定率は8割を超えています。これは花巻地区の高校では最も高い内定率の一つです。残り数名の生徒はこれから受験予定ですが、良い結果が期待されるようです。また、本年度、岩手県社会福祉事業団に1名内定しました(準公務員扱い)。高卒からの就職は、以前と違い進学することよりもかなり難しい状況です。

主な内定先

(平成25年2月15日現在)

- 岩手ホテル&リゾート(1)
- トヨタ紡織東北株式会社(1)
- リコー光学株式会社(1)
- トヨタ紡織株式会社(1)
- 第一貨物株式会社仙台支社(1)
- 帝産観光(1)
- 他



この写真は本校の校舎と塔の風景です。春の訪れを感じさせる桜の花も咲き始め、校舎の周りには緑の芽が動き出しています。





ハンドボール部女子：東北大会ベスト8進出!!



ソフトテニス部女子
県選抜優勝3年ぶり8回目



インターハイ出場 (新潟市)



ハンドボール部男子：創部以来初の東北大会出場!



弓道部：ミミ国体2位入賞 国体6位入賞!!



ソフトボール部：県高総体ベスト16 県新人選抜大会第2位



剣道部：一打入魂に賭ける!!



書道部：高文祭、コンクール出品など意欲的に活動しています

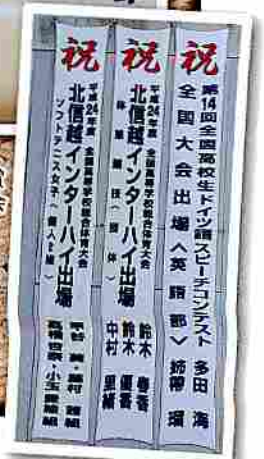
体操部女子：県高総体・新人戦優勝
写真はインターハイ(福井県)



吹奏楽部：聖和学園高校との合同演奏～遠山詠一先生をお迎えして～
全日本高等学校ソロコンクールSax最優秀賞!



合唱部
全日本合唱コンクール県大会銅賞
慮の合った明るいハーモニーを会場に響かせた





国際交流 (海外ホームステイ研修)



昨年度は創立100周年事業の支援を受け、これまでの倍の生徒を海外派遣することができ、多くの生徒が研修の成果をあげることができました。

また、海外姉妹校からの義援金等の震災支援に対して、直接謝意を伝える機会となり、国際交流を通じた両校の絆を更に強いものとなりました。

1. 韓国コース

派遣期間 平成24年3月15日(木)～3月19日(月)

場所 韓国 安養外国語高等学校

参加生徒 1年6名 2年4名

2. ドイツコース

派遣期間 平成24年3月11日(日)～3月21日(水)

場所 ドイツ ヴァイアーホフ高等学校

参加生徒 1年5名 2年5名



歓迎会



授業参観



民族衣装ハンbok体験



景福宮



帰りのバスに乗る直前に、ホストパートナーと一緒に記念撮影



クリス先生の8年生(中学2年)の英語クラスでゲームに参加



義援金の募金してくれた高校生、小学生の代表生徒達へ義援金の使われ方、震災の状況等を報告



これが本場のフランクフルトソーゼージ

編集後記

「暑さ寒さも彼岸まで」
昨夏、この言葉に例外があることを、つくづく思い知らされました。

近年、例のない連日の酷暑に辟易した某日、一転秋の朝を迎えたコントラストは、正に自然の気紛れの他、云うべき言葉もありません。

さて、前後五回に亘り紙上に大きな存在感を示していた、所謂「開校百周年シリーズ」は、昨号を以ってピリオドを打ちました。過ぎし幾多の一駒、一駒に思いを馳せるとき、ただただ懐かしく、他方一抹のさびしさが交又する昨今で

ございます。
而して、自今の編集は、別の視点、観点からの取組みが求められるのは理の当然であります。

翻って、今般メンバーの大半に異動があり、斯かる状況の下、各々創意工夫を凝らし、努力に努力を重ねた成果が本号であります。

はや、齢(よわい)三十に到達した本紙に、従前に増した暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本紙作成に当り快く原稿依頼に応じて下さった方々に感謝いたしております。どうも有難うございました。



編集委員

編集委員長

高橋 昭三 (南2)

編集委員

鶴田やす子 (南1)

小瀬川陽子 (南5)

石川 映代 (南6)

齋藤ワカ子 (南11)

照井 重美 (南16)

葛巻久美子 (南18)

佐藤 仁実 (南37)

戸来 誠 (南41)

事務局

佐藤 陽子 (南23教諭)

及川 真紀 (教諭)